

## ■学校経営のポイント

### 「言語活動の充実」

小島 宏

新教育課程になって3年目（中学校は2年目）を終えようとしている。教育内容に関する主な改善事項の1つ「言語活動の充実」について、最近、ようやく授業の中で具体化され出したように思う。そこで、管理職はリーダーシップを発揮し、言語活動の充実を質の高い学力の向上に結び付けたい。そのためには、言語活動の再確認が必要である。

#### 基本の確認(平成20年中教審答申)

〈知的活動の基盤として〉観察・実験、見学のレポートなどでは、視点を明確にし、事象の差異点や共通点をとらえて記録・報告する（理、社等）。比較や分類、関連付けなど考える技法、帰納的な考え方や演繹的な考え方などを活用して説明する（算・数、理等）。仮説を立てて観察・実験をし、その結果を評価し、まとめて表現する（理等）。等々。

〈学習活動を支える条件〉第一は語彙を豊かにする。第二に読書活動を推進する。第三に学校図書館の活用や学校における言語環境を整備する。

#### 国語科で育成する能力(同上)

国語科の各領域で対話、記録、報告、要約、説明、感想などの言語活動を行う能力を確実に身に付けるよう継続的に指導し、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、相互に思考を深めたりまとめたりしながら解決する能力を育成する。

#### 国語科の言語活動の重点(指導要領解説国語)

目標の達成、内容の理解、課題を解決する際に有効に活用する立場で「話し合うこと」や「交流」、知的コミュニケーション<sup>(注)</sup>として充実することが重要である。国語科における言語活動の充実が他教科等の基礎になることを認識して進める必要がある。

#### 算数科における言語活動の重点(同上算数)

ノートの書かせ方の形式や発表の際の話型に矮小化して進められている傾向がある。「(1)考えを表現する過程で自分のよい点や誤りに気付く。(2)考えを

表現することで筋道を立てて考えを進めたりよりよい考えを作ったりできるようになる。(3)授業の中で、様々な考えを出し合い、互いに学び合っていくことができるようになる」ことを念頭におくことが重要である。その上で「考えたことや気付いたことを、根拠を明確にして表現する。それを基に伝え合い、学び合う知的コミュニケーションを高める」ことを重視する。

知的コミュニケーションでは、相手の話を聞いて質問したり、反論したり、他の意見を出したりするなど「受けて返す力」を育て、個人としても集団としても高まるようにすることがポイントになる。

#### 総合的な学習における言語活動(同総合)

「(1)友達と協同して取り組むことで、学習活動が発展し課題意識が高まり、問題解決や探究活動の質が高まる。(2)異なる見方があることで解決の糸口がつかみやすくなる。(3)問題解決や探究活動は友達と協同して取り組むことが大切である。(4)友達と一緒に活動したり話し合ったりしながら、自己を振り返り自分の考えや意見を再構築していく」という、協同的に取り組む態度のよさを再確認して、知的コミュニケーションを重視していくことが大切である。

#### 授業の中の知的コミュニケーション

知的コミュニケーションは、授業の中の「自力解決」の段階で個人の考えや意見をある程度はっきりさせ、表現させる。それを発達段階に即してペアでの情報交換、グループでの話し合い、学習集団全体での学び合いを適宜組み合わせるようにする。これは教科だけではなく、道徳の時間、特別活動、いじめの解決に向けた指導などにも活用できる。

(注)知的コミュニケーション……人間関係を好ましくする意味の(仲良し)コミュニケーションではなく、学び合うコミュニケーションを指す。

(こじま・ひろし＝一般財団法人教育調査研究所研究部長)

●56名のベテラン校長が自ら選んだ「教師生活を通じて最も感動を呼んだ講話」56編

## 『心を揺さぶる校長講話』

【編集】向山行雄(前全国連合小学校長会会長) A5判・204頁／定価2,310円

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、無料FAX 0120-462-488をご利用ください(24時間受付・即日発送)